

2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年7月31日

上場会社名 積水化成品工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4228 URL <https://www.sekisuikasei.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 古林 育将
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員 (氏名) 佐々木 勝巳 TEL 03-3347-9618
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年3月期第1四半期	25,609	△19.9	1,044	298.1	1,164	426.8	1,795	476.8
2026年3月期第1四半期	31,960	△5.4	262	—	221	△57.3	311	149.5

（注）包括利益 2027年3月期第1四半期 2,818百万円（－％） 2026年3月期第1四半期 △961百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	39.38	—
2026年3月期第1四半期	6.85	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2027年3月期第1四半期	126,362	53,078	41.4
2026年3月期	122,355	50,945	41.0

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 52,315百万円 2026年3月期 50,182百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期（予想）	—	5.00	—	12.00	17.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
第2四半期（累計）	52,000	△20.9	1,600	105.0	1,400	570.8	2,000	—	43.86
通期	105,000	△7.8	3,100	21.5	2,600	15.6	2,500	16.4	54.83

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	46,988,109株	2026年3月期	46,988,109株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	1,390,541株	2026年3月期	1,390,541株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	45,597,568株	2026年3月期1Q	45,462,327株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
(4) 研究開発活動	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等の注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、中東情勢をはじめとする地政学リスクの継続や米国の通商政策の動向など、先行き不透明な状況で推移しました。一方で、AI関連をはじめとしたデジタル・先端分野では設備投資需要が堅調に推移するなど、地域や業種により景況感に濃淡が見られました。

日本経済においては、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の回復を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移しましたが、エネルギー価格の高止まり、金利上昇や為替変動の影響などから、個人消費や企業活動への影響が懸念される状況が続きました。

発泡プラスチック業界においては、食品容器関連では物価上昇に伴う節約志向や消費マインドの慎重化を背景に需要回復の動きは限定的となる一方で、環境配慮型製品や省資源製品に対する需要は堅調に推移しました。工業用途においては、自動車関連を中心に底堅い需要が見られたものの、エレクトロニクス分野では回復に遅れが見られました。

このような経営環境のもと、当社グループは、2025年度よりスタートさせた3カ年中期経営計画「Going Beyond 2027～変革と完遂～」の基本方針に基づき、「収益力の強化」および「経営基盤の強化」の2つの重点課題にグループ一丸となって取り組んでまいりました。

『収益力の強化』においては、低採算事業やポートフォリオの見直しを進めるとともに、高付加価値分野への経営資源の集中を図っております。『経営基盤の強化』においては、資本コストを意識した経営を推進し、保有資産の見直しや資産効率の改善に取り組みました。

当社グループの経営成績につきましては、事業再構築の一環として前年度に完了した欧州Proseatグループの事業譲渡により売上高は減少したものの利益面では収益改善に寄与しました。更に、生産性改善や固定費削減などの収益確保をグループ全社で推進し、中東情勢の影響に対しては安定供給を最優先に対応を進めながら、急激な原燃料価格の高騰に対しては、適正な価格対応を各取引先様の理解を得ながら進めてまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は256億9百万円（前年同期比19.9%の減少）、営業利益は10億4千4百万円（前年同期比298.1%の増加）、経常利益は11億6千4百万円（前年同期比426.8%の増加）となりました。また特別損益として、国外子会社による固定資産の譲渡に伴う有形固定資産売却益13億5千万円を特別利益として計上した一方、国外子会社の清算等による事業整理損1億3千万円を含む特別損失1億6千4百万円を計上したことなどにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億9千5百万円（前年同期比476.8%の増加）となりました。

以下、各セグメントの業績は次のとおりであります。

<ヒューマンライフ分野>

売上高143億3千2百万円（前年同期比10.9%増）、セグメント利益10億2千4百万円（前年同期比80.6%増）となりました。

売上高は、製品の供給懸念に伴う先入れ需要での販売数量増加や原燃料価格の急激な高騰を受けて販売価格の適正化を進めたことにより増収となりました。セグメント利益は、生産性改善や固定費削減などの収益改善と販売数量増により前期に比べ大幅に改善しました。

食領域	「エスレンシート」
	・スーパー向け食品容器用途の出荷数量は前年をやや上回り推移。 ・納豆用途は出荷順調で前年を上回る。 ・省資源素材などの環境貢献製品の出荷数量は好調。 ・即席麺用途の出荷数量は前年並みとなる。
	「エスレンビーズ」
	・農産用途は出荷数量が順調に推移し前年を大きく上回る。 ・水産用途は先入れ需要により前年を上回る。 ・各地域の生協でリサイクル原料を使用したRNWの採用が進む。
住環境・エネルギー領域	・建材関連資材は工事物件が堅調となり売上は好調に推移。 ・土木関連資材は、軽量盛土工法で前期に大型案件があり前年比下回る。 ・下水管や電力管工事などで使用されているFJリングは物件獲得が進み好調。

※エスレンシート：発泡ポリスチレンシート

※エスレンビーズ：発泡性ポリスチレンビーズ

※エスレンビーズRNW：環境負荷低減を目的としたリサイクル原料を使用した発泡ポリスチレン製品

※FJリング：下水道などの推進工事で使用される発泡ポリスチレン製のクッション材

＜インダストリー分野＞

売上高112億7千6百万円（前年同期比40.8%減）、セグメント利益9億4千1百万円（前年同期比155.0%増）となりました。

売上高は、欧州のProseatグループの事業会社譲渡により、前年を大幅に下回りました。セグメント利益は、伸長分野であるモビリティ領域やエレクトロニクス領域が好調に推移したことに加え、Proseat事業会社譲渡に伴う収益改善もあり、前期に比べ大幅に改善しました。

モビリティ領域	「自動車部材用途」 ・日本は採用車種が販売好調、北米・北東アジアも好調に推移した結果、全体では前年を大幅に上回る。 「部品梱包材用途」 ・日本・南東アジアは前年並みも、北東アジアが好調で全体では前年をやや上回る。 「FRP部材ならびに関連資材」 ・中東情勢による減産影響はあるも、バスが需要好調、建機も堅調に推移し、全体では好調に推移。
エレクトロニクス領域	「ピオセラン」 ・液晶パネル搬送資材用途は、他素材への切替などで需要が減少し、低調に推移。 「テクポリマー」 ・ディスプレイ用途は需要回復傾向、ライティング・塗料用途の需要も好調で、全体では好調に推移。
医療・健康領域	「テクノゲル」 ・ゲルロールは販売好調も、医療・健康分野の需要が低調で、全体では前年をやや下回る。

※FRP部材：繊維強化プラスチック部材

※ピオセラン：ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体

※テクポリマー：ポリマー微粒子

※テクノゲル（ST-gel）：機能性高分子ゲル

（2）当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、40億6百万円増加し、1,263億6千2百万円となりました。資産の部では、受取手形及び売掛金の増加などにより流動資産が48億6千1百万円増加しました。

負債の部では、支払手形及び買掛金の増加などにより18億7千4百万円増加し、732億8千4百万円となりました。

純資産の部では、利益剰余金の増加などにより21億3千2百万円増加し、530億7千8百万円となりました。自己資本は523億1千5百万円となり、自己資本比率は41.4%となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況については、営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増加による資金減少などにより前年同期に比べ2億1千1百万円収入が減少し、2億3千3百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の売却による収入などにより、前年同期に比べ2億7千3百万円収入が増加し、6億1千6百万円の収入となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額の増加などにより前年同期に比べ1億8千2百万円支出が増加し、11億9百万円の支出となりました。

この結果、現金及び現金同等物の当第1四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べて、1億3千6百万円減少し、92億1千5百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①2027年3月期中間期連結業績予想(2026年4月1日～2026年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	百万円 50,500	百万円 300	百万円 50	百万円 1,000	円 銭 21.95
今回発表予想(B)	52,000	1,600	1,400	2,000	43.86
増減額(B-A)	1,500	1,300	1,350	1,000	
増減率(%)	3.0	433.3	—	100.0	
(ご参考) 前年中間期実績	65,715	780	208	△3,466	△76.16

②修正の理由

2027年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想につきましては、従来から取り組んでいる不採算事業の見直しや保有資産の売却による収益寄与に加え、原燃料価格高騰の影響緩和に向けた生産性改善・固定費削減などの収益確保の推進や供給懸念に伴う先入れ需要による販売数量の一時的な増加、また適正な価格改定などの施策が想定よりも早期に進展したことなどにより、前回予想を上回る見込みとなりました。

一方で、下期につきましては、中東情勢等の地政学リスクに伴う原燃料価格や為替の動向、需要環境の先行き不透明感が継続するものと見込んでおります。

通期の連結業績予想につきましては、上期に需要が前倒しになっていることも踏まえ、現時点では前回公表予想を据え置いております。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は5億2千5百万円であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,554	10,443
受取手形及び売掛金	19,499	21,432
電子記録債権	8,695	9,211
商品及び製品	7,513	7,950
仕掛品	406	360
原材料及び貯蔵品	3,865	4,529
その他	1,824	2,292
貸倒引当金	△24	△24
流動資産合計	51,334	56,195
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	13,267	12,794
機械装置及び運搬具（純額）	10,871	11,147
土地	20,697	19,805
その他（純額）	3,914	3,889
有形固定資産合計	48,751	47,637
無形固定資産		
その他	1,614	1,519
無形固定資産合計	1,614	1,519
投資その他の資産		
投資有価証券	10,555	11,515
退職給付に係る資産	7,156	7,180
その他	3,014	2,366
貸倒引当金	△69	△52
投資その他の資産合計	20,655	21,009
固定資産合計	71,021	70,167
資産合計	122,355	126,362

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,919	12,992
電子記録債務	6,857	7,712
短期借入金	6,970	7,353
1年内償還予定の社債	7,000	7,000
未払法人税等	1,203	468
賞与引当金	1,182	706
役員賞与引当金	31	11
その他	5,534	6,111
流動負債合計	39,699	42,355
固定負債		
長期借入金	24,783	23,999
退職給付に係る負債	4,146	4,155
製品補償引当金	56	56
その他	2,723	2,717
固定負債合計	31,710	30,928
負債合計	71,409	73,284
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,533	16,533
資本剰余金	16,311	16,311
利益剰余金	12,398	13,509
自己株式	△1,121	△1,121
株主資本合計	44,122	45,233
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,308	5,965
土地再評価差額金	1,550	1,550
為替換算調整勘定	△620	△315
退職給付に係る調整累計額	△177	△118
その他の包括利益累計額合計	6,060	7,081
非支配株主持分	763	762
純資産合計	50,945	53,078
負債純資産合計	122,355	126,362

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	31,960	25,609
売上原価	25,388	18,854
売上総利益	6,572	6,754
販売費及び一般管理費	6,309	5,710
営業利益	262	1,044
営業外収益		
受取利息	9	11
受取配当金	212	228
為替差益	—	47
その他	61	56
営業外収益合計	282	343
営業外費用		
支払利息	241	162
為替差損	6	—
固定資産除売却損	31	30
その他	44	30
営業外費用合計	323	223
経常利益	221	1,164
特別利益		
有形固定資産売却益	713	1,350
特別利益合計	713	1,350
特別損失		
減損損失	155	23
支払手数料	298	—
事業整理損	—	130
その他	—	10
特別損失合計	454	164
税金等調整前四半期純利益	480	2,351
法人税等	166	554
四半期純利益	314	1,797
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	311	1,795

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	314	1,797
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△260	657
為替換算調整勘定	△1,008	305
退職給付に係る調整額	△5	58
その他の包括利益合計	△1,275	1,021
四半期包括利益	△961	2,818
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△963	2,816
非支配株主に係る四半期包括利益	2	1

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	480	2,351
減損損失	155	23
減価償却費	1,259	1,239
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△17
受取利息及び受取配当金	△221	△239
支払利息	241	162
賞与引当金の増減額(△は減少)	△485	△476
製品補償引当金の増減額(△は減少)	△0	△0
退職給付に係る資産負債の増減額	△47	69
固定資産除売却損益(△は益)	△683	△1,331
売上債権の増減額(△は増加)	△87	△2,332
棚卸資産の増減額(△は増加)	202	△1,006
仕入債務の増減額(△は減少)	△5	2,999
その他	208	△308
小計	1,016	1,132
利息及び配当金の受取額	221	239
利息の支払額	△241	△198
損害保険金の受取額	3	0
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△554	△939
営業活動によるキャッシュ・フロー	445	233
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,093	△1,011
有形固定資産の売却による収入	1,251	2,648
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
貸付けによる支出	△1	△1
貸付金の回収による収入	1	1
その他	186	△1,020
投資活動によるキャッシュ・フロー	343	616
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,543	1,566
長期借入れによる収入	4,100	700
長期借入金の返済による支出	△3,219	△2,689
配当金の支払額	△0	△659
非支配株主への配当金の支払額	△1	△1
その他	△262	△25
財務活動によるキャッシュ・フロー	△927	△1,109
現金及び現金同等物に係る換算差額	34	122
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△104	△136
現金及び現金同等物の期首残高	9,128	9,352
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,024	9,215

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ヒューマンライフ 分野	インダストリー 分野	計		
売上高					
日本	12,906	5,673	18,579	—	18,579
チェコ	—	3,213	3,213	—	3,123
ドイツ	—	2,992	2,992	—	2,992
その他欧州	—	3,283	3,283	—	3,283
アジア	17	2,587	2,604	—	2,604
その他	—	1,286	1,286	—	1,286
顧客との契約から生じる収益	12,923	19,036	31,960	—	31,960
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	12,923	19,036	31,960	—	31,960
セグメント間の内部売上高 又は振替高	53	30	83	△83	—
計	12,977	19,067	32,044	△83	31,960
セグメント利益	567	369	936	△715	221

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△715百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△715百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・ヒューマンライフ分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、セルペット
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・インダストリー分野—— ビオセラン、ライトロン、ネオマイクロレン、テクポリマー、テクノゲル、
テクヒーター、エラストイル、フォーマック、ST-LAYER、
ST-Leaveat、これら成形加工品など

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ヒューマンライフ 分野	インダストリー 分野	計		
売上高					
日本	14,320	6,397	20,717	—	20,717
チェコ	—	43	43	—	43
ドイツ	—	245	245	—	245
その他欧州	—	289	289	—	289
アジア	12	2,694	2,707	—	2,707
その他	—	1,604	1,604	—	1,604
顧客との契約から生じる収益	14,332	11,276	25,609	—	25,609
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	14,332	11,276	25,609	—	25,609
セグメント間の内部売上高 又は振替高	64	37	101	△101	—
計	14,397	11,313	25,710	△101	25,609
セグメント利益	1,024	941	1,966	△801	1,164

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△801百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△801百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・ヒューマンライフ エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、セルペット
分野——— これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・インダストリー ピオセラン、ライトロン、ネオマイクロレン、テクポリマー、テクノゲル、
分野——— テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、
ST-Elevenet、これら成形加工品など